

三里松原再生計画策定に係る専門部会（第3回 その2）

住民アンケート調査結果について 調査報告書 意見・要望の詳細

住民アンケート調査は以下の要領で実施しました。
アンケートにお答え頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。
今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます。

調査期間	隣接区：平成21年7月10日から配布、平成21年7月31日回収✓切 隣接区以外：平成21年7月9日送付、平成21年7月24日回収✓切 隣接区以外の行政区長：平成21年7月9日送付、平成21年7月24日回収✓切 8月5日回収分までを集計対象とした。
調査方法	隣接区：各区長 各組長による配布、各組長による回収・各組長への提出 各区長 隣接区以外：郵送法 隣接区以外の行政区長：郵送法
調査対象及び対象者抽出方法	隣接区：1,803人（概ね全世帯） 隣接区以外：400人（任意抽出） 隣接区以外の行政区長：44人（全員） 2,247人
回収数	隣接区：1,127人 隣接区以外：202人 行政区長含む 行政区不明：73人 白紙（無記入）：7人 1,409人
有効回収数	隣接区：1,127人 隣接区以外：202人 行政区長含む 行政区不明：73人 1,402人
有効回収率	隣接区：62.5% 隣接区以外：45.5% 行政区長含む 全体：62.4% 行政区不明分含む

三里松原の保全・活用に関する住民アンケート調査結果の概要

【】内は報告書のページ

三里松原の松林のなか

- ・約8割の人が三里松原の松林の中に入ったことがある。（「よく行く」、「たまに行く」、「1回は行ったことがある」の合計） 【P6】
- ・松原の中に入る目的は、「森林浴・散歩(30.9%)」、「景色を楽しむ(16.7%)」 【P6】
- ・地区別にみると隣接区以外は「景色を楽しむ」ために訪れる人が多い。 【P8】
- ・三里松原の中に入ったことがない人の理由は、「松林の中に入れることを知らなかった」ことが最も多く、離れた地区でもこの理由が多い。 【P6、8】
- ・三里松原の状況は「良くない」と感じている人（「あまり良くない」と「悪い」の合計）が約半数(46.8%)あり、その理由は「松原にごみが捨ててあり、汚い(42.5%)」「松原の中に入りにくい(35.4%)」「案内板がない、道がわからない(26.7%)」「松林の中が暗いため危険(26.5%)」などの順となっている。 【P37】

・今後の松原の保全・活用への意見、要望でも標示やアクセス性、安全性に関する意見がみられる。 [P47、48]

三里松原周辺の海岸

・約9割の人が三里松原周辺の海岸に行ったことがある。 (「よく行く」、「たまに行く」、「1回は行ったことがある」の合計) [P10]

・海岸に行く目的は、「海水浴・釣り(35.8%)」、「景色を楽しむ(31.6%)」、「散歩(29.5%)」が多い。 [P10]

遠賀宗像自転車道(サイクリングロード)

・全く行ったことがない人が約半数。遠賀宗像自転車道に行く目的は「散歩(36.7%)」、「サイクリング(30.8%)」、「景色を楽しむ(26.8%)」が多い。 [P10]

・海岸に行く目的は、「海水浴・釣り(35.8%)」、「景色を楽しむ(31.6%)」、「散歩(29.5%)」が多い。 [P10]

・行ったことがない理由は離れた地区では「家から遠い」が最も多い。 [P10]

三里松原やその周辺で行われている取り組み

・「雑木等の除伐」以外の松原の管理に関する活動の認知度(「参加したことがある(した)」と「知っているが参加したことはない(しなかった)」の合計)は高く、半数を超えており(マツの植林65.6%、松葉かき51.5%)、参加者も2割程度(マツの植林25.2%、松葉かき17.9%)いる。 [P14~22]

・松原の管理に関する活動に参加したことの割合は、居住年数が長くなるほど高くなっており、マツの植林、松葉かきでは年代が上がるにつれて高くなっている。 [P14~22]

・ラブアース・クリーンアップ運動の認知度は非常に高く(90.3%)、参加者も57.3%を占めている。 [P24、25]

・波津海水浴場の貸し自転車やクリーンアップ・サンリー海岸の認知度も6割程度ある。 [P26~29]

・三里松原の保全・整備活動への参加に肯定的な人(「参加したい」と「参加してもよい」の合計)は42%で、居住年数が上がるにつれて「参加したい」の割合が高くなっている。 [P43、45]

・参加できる活動は「マツの植林(55.7%)」、「松葉かき(51.4%)」が5割を超えている。「どちらともいえない」または「あまり参加したくない」と回答した人の参加するための条件は「一緒に参加する人がいる(23.6%)」、「楽しく活動ができるしかけがある(21.1%)」、「活動に対する具体的な目標がある(19.7%)」が多い。 [P43]

三里松原の果たす役割

・三里松原は岡垣町のシンボルの一つと感じている人(「おおいにそう思う」と「ある程度そう思う」の合計)が多い。(84.0%) [P30]

・三里松原の地域指定(玄海国定公園、防風保安林)の認知度は高く(玄海国定公園65.7%、防風保安林77.8%)、70代までは年代があがるにつれて「知っていた」の割合が高くなっている。 [P31~33]

・飲料水の水源があることについては認知度が35.8%に止まっており、特に女性は「知らなかった」が7割程度となっている。 [P34~35]

・今の三里松原の景観を良いと感じている人(「非常に良い」と「良い」の合計)は39.4%で、「海側から見た景観」、「成田山」や「湯川山」など高い場所から見た景観が良いと感じている。 [P36]

・今後の松原の保全・活用への意見・要望では、「昔の景観に戻したい」という意見が見られる。 [P47、48]

・三里松原が役立っている点については「強風による被害(潮害、飛砂)の軽減(85.9%)」が最も多く、潮害や飛砂の被害は「受けたことがない」が約半数。「受けたことがある」は2割に止まる。 [P39、40]

保全・活用の方向性

・今後の三里松原の保全・活用において重要なことは、「防風・防潮や水源かん養の機能を重視する(63.1%)」が最も多く、次いで「適正な手入れを行い、松林として維持する(55.8%)」「散歩、ジョギング、サイクリングなど健康づくりに利用できる場所がある(47.6%)」などで、「自然の推移に任せて何も手を加えない」はごくわずか(2.8%)となっている。 [P41]

松原の現状、問題点、課題について

専門部会委員、植物等調査及び住民アンケート調査等からみた課題等を解決するためには、概ね次の3点について整理する必要があります。

- 1 どこまで人を三里松原に近づけるのか？(国定公園、保安林、国有林との関係)
- 2 保全と活用のバランスをどう考えるのか？(森林法、自然公園法等の土地利用法規制の整理)
- 3 誰がどのようにして保全・整備活動を進めていくか？(活動主体、目標の明確化)

問題点・課題

積極的な利用・活用する場合の問題点

- ・人為的な造作が自然破壊に繋がる
- ・人が入ることでゴミ・火災などが懸念され、マナー・モラルの向上が不可欠である
- ・安全で安心して利用できる、掲示板、道路、駐車場整備が必要である
- ・三里松原をより理解し、身近に感じることができる憩いの場、環境教育の場が必要である

現状のままで何も手を加えない場合の問題点

- ・監視の目がないためにゴミの不法投棄が多い
- ・雑木等が密生することで、景観上悪い
- ・松原の中が暗く、案内板等がないため一人で歩くのは危険である
- ・維持管理不足によりマツの生育に支障を来たす
- ・マツが減り、広葉樹等へ転換する

その他の問題点

- ・マツの衰退や海岸線の構築物(消波ブロック・離岸堤)による保安林機能の低下
- ・三里松原及び保全活動のPRが不足しているため、松原の保全意識が低い
- ・松原(内)へのアクセス性が悪いいため、松原を体感できない
- ・県外者による希少種等の盗掘が多い

専門部会員の主な意見等

Q 国有林に入れることができるのですか？立ち入り禁止ではないのでしょうか？

A 基本的に国有林はオープンです。不審火等が他の地域でも発生しているため、人を近づけるかどうかのバランスが非常に難しいことが現状です。なお、三里松原は火(タバコなど)の使用についても火気厳禁となっておらず、注意喚起の表現(看板)となっています。

Q 地域の住民は善意の利用で、外部の人が入ることで悪くなる。立ち入り規制などできるのか。

A 森林法上、人の規制はできません。ただし、車の規制は可能です。

opinion 西側はマツでなくても良いが、防風林機能を高めてほしい。

opinion 他県からキノコなど密獲に来ている。活用するためには、マナー・モラルの向上が不可欠である。

opinion 密獲が多いため注意できる権限を付与してほしい。林内をきちんと管理できるなら人が入ってもよい。

opinion 海岸沿いの幼齢林までは人を入れても、老齢林までは入れさせないほうが良いのではないか。内陸部までは目が届かない。また、防風林が目的のため公園にすることは反対である。

opinion 三里松原東側の高い所の松は維持される。防風保安林機能が重要なため、活用はレーンを決めて限定的に行うべきである。

opinion 松でないと防風・防潮機能は果たせない。広葉樹が20~30mであったとしても切って松にしたい。

[戻る](#)